

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：32660

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26420618

研究課題名(和文) 都市環境の更新を契機とするシビックプライドの醸成に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Study on Fostering Civic Pride at the Renewal of the Built Environment

研究代表者

伊藤 香織 (ITO, Kaori)

東京理科大学・理工学部建築学科・教授

研究者番号：20345078

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の都市のシビックプライド(都市に対する市民の誇り)の構成、及び、都市環境とシビックプライドとの関係を明らかにすることを目的とし、主に今治市と富山市の事例による実証的分析を行った。2都市の調査・分析の結果から、「アイデンティティ」「参画」「愛着」「持続願望」がシビックプライドの構成要素として抽出された。共分散構造分析を用いた分析によって、外部からの評価や一般の社会的関心などが都市環境に対する誇りに影響すること、都市環境は「アイデンティティ」「愛着」に影響すること、都市環境の中でも中心市街地の評価が「参画」に影響し、著名地の評価が「愛着」に影響することなどが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study has two aims. One is to clarify the factors that compose civic pride, especially in Japanese cities, and the other is to elucidate the relationship between the built environment and civic pride. We conducted questionnaire surveys among the residents in Imabari City and those in Toyama City. Our major findings from two case studies are as follows: Civic pride is related to 4 factors: identity, engagement, attachment and desire to maintain. Image value and environmental and townscape value of the built environment affect pride on the built environment. The built environment, among other sources, affects identity and attachment. The value attached to the city center affects engagement and the desire to maintain and the value attached to famous places affects attachment.

研究分野：都市計画

キーワード：シビックプライド 都市環境 共分散構造分析 価値

1. 研究開始当初の背景

シビックプライド (civic pride, 都市に対する市民の誇り) は、より良い都市づくりに不可欠な要素のひとつである。欧米を中心に海外の研究を概観すると、シビックプライドを喚起・醸成させるものとして、スポーツ、イベント、ボランティア、政治参加などが取り上げられており、シビックプライドとの関係を測るような研究も散見される。

一方で、建築、公共空間、パブリックアートなど都市環境 (built environment) についても、シビックプライドとの関係について多くの議論がなされている。1990年代以降のイギリスの都市再生と地方分権の流れの中でしばしば取り上げられたのが、「ヴィクトリア朝期の都市建築がシビックプライドを象徴するものであった」ことである。現在でも「公共建築や公共空間はシビックプライドの象徴である」という認識が広く共有されている。

翻って日本では、シビックプライドの概念が研究代表者等の著書によって2008年に紹介されて以来、都市計画・都市政策の現場でしばしば用いられるようになってきているが、客観的指標でシビックプライドを測り、何がシビックプライドの醸成に寄与するのかを実証的に論じた研究はほとんどない。また、都市形成の歴史や文化の違いから、英国や他の欧米地域のシビックプライドと日本のシビックプライドとは必ずしも同じ意識ではないだろう。したがって、日本型のシビックプライド、日本の都市における市民と都市との関係性の内実を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、都市環境のどのような側面がシビックプライドを育むのか、そして、日本の都市でのシビックプライドをかたちづくる意識の構成はどのようなものなのかを実証的に明らかにすることを目的とする。

明らかにしたいのは、以下の点である。

- (1) 都市環境の何がシビックプライドを育むのか
 - ・都市環境自体の美的価値、都市環境によって経済的に豊かになること、都市環境に対する他者の評価、都市環境形成のプロセスに参加する体験、など
 - ・どのような都市施設がよりシビックプライドを育むのか。公共空間、ランドマーク、文化施設、学校など
- (2) 日本のシビックプライドをかたちづくる意識の構成はどのようなになっているのか
 - ・自慢、愛着、満足、推奨意識、責任感、自己実現など、都市に対する様々な意識とその関係性

3. 研究の方法

(1) 研究の流れ

本研究は、主に以下の4つの分析から成る。

①シビックプライドの意識の構成を探るために、まず、イギリスを中心とした海外の既往研究・既往文献から、シビックプライドの定義や説明を抽出し、シビックプライドを構成する意識の要素を整理する。その上で、シビックプライドを構成する各要素を測るシビックプライド尺度を作成する。シビックプライド尺度を用いて、日本の都市の事例でシビックプライドの構成を探る。

②都市環境の何がシビックプライドを育むのかを探るために、まず都市環境のもつ価値を整理する。都市環境のどのような価値認識によってその都市環境がシビックプライドを喚起・醸成するものとなるのかを、日本の都市の事例で分析する。

③都市環境の特性を知るために、シビックプライドを喚起・醸成する他の要素についても調査を行う。まず、既往研究・既往文献から都市に関わるどのような要素がシビックプライドを喚起・醸成するとされているかを整理した上で、日本の都市の事例で調査・分析を行う。

④どのような都市環境がシビックプライドに影響するのかを探る。都市環境の質がシビックプライドを強化する効果があると言われるものの、特に異なるタイプの都市環境が混在する場合は質を定量的に測定するのは困難であるため、本研究では都市環境の価値評価からシビックプライドの各要素への影響をモデル化する。日本の都市の事例で分析を行う。

(2) 調査

上記の分析を実証的に行うために、日本国内の具体的な事例として、愛媛県今治市及び富山県富山市、関連して愛知県岡崎市を、取り上げる。いずれも人口10万~50万人の地方都市である。シビックプライドが歴史的に19世紀イギリスの地方都市に特徴的な精神であったことも踏まえ、中規模の地方都市を対象とした。今治市は、著名建築家の作品を含む新旧の建造物があり、小規模ながら都市再生の取り組みがある一方で、郊外開発が進められているなど、都市環境のバリエーションが見られる。富山市は、先駆的にコンパクトなまちづくりを目指して中心市街地の都市環境整備を行ってきており、新たに整備された都市環境が様々な賞を受賞するなど高く評価されている。岡崎市では市民による景観選定事業が行われ、その中で歴史的建造物、

表1 アンケート調査概要

対象	今治市 在住者	富山市 在住者	岡崎市 在住者
調査期間	2016年2月	2018年2月	2017年1月
サンプル数	235	600	500
主調査項目	個人属性		
	シビックプライド尺度		地域愛着
	都市環境評価		景観評価
	他要素に対する誇り		

自然環境、土木構築物など多様な景観対象が選ばれている。ただし、本報告書では、岡崎市の調査・分析結果については割愛する。

いずれの事例でも、主たる調査はインターネットリサーチ会社のシステムを用いた Web アンケート調査であり、各都市在住者にアンケートを行った。調査概要は、表 1 の通りである。

4. 研究成果

(1)シビックプライドを構成する要素と尺度
まず、既往研究・既往文献を参考にシビックプライドの要素を抽出する。

Collins¹⁾はシビックプライドの概念を整理しており、時代や地域にかかわらず「自己決定、文化アイデンティティ、市民権、所属の概念と結びついている」と述べているほか、都市間競争の歴史との結びつき、「コミュニティ精神」や「シビック・ブースターリズム」といった概念と合わせて捉えられていること、「共有され結束した都市のイメージ」を象徴するといった考え方も紹介している。一方で、強すぎるプライドによって盲目的な態度に陥る危険性も指摘している。また、Collins²⁾は、総称としては「地域市民がいかに自分たちを特徴付けコミュニティとして自らを代表せしめるか、地方自治体がいかに場所を治め振興するか、人々がいかに地域に関わり地域に介入するか」に関わり、市民感情の観点からは「特定の場所に対する強いレベルの愛着や忠誠心、そしてそれに付随して、強いアイデンティティと所属の感覚」と述べている。他にも、「自らの市民としての責務に対する個人の誇りの感覚」³⁾、「コミュニティ

の感覚」⁴⁾、「公共善」⁵⁾という言い換えもされており、その多面性が垣間見られる。これらを踏まえて、本研究では、シビックプライドには、地域参画、地域アイデンティティ、忠誠的愛郷心、地域愛着の側面があるものと大別する。

既往研究では、シビックプライドを測る尺度には、様々なものが用いられており、「誇りに思うか」と直接問うものから地域を形容する言葉を挙げて程度を問うものまで様々な聞き方があり、観点も多様である。本研究はシビックプライドの多面性に注目しているので、「誇り」という言葉に集約した問い方はせず、既往研究を参考に表 2 のシビックプライド尺度を作成した。これらを 5 段階で問う。

今治市と富山市のアンケート調査の結果から、シビックプライド尺度を因子分析すると、今治市、富山市ともに「愛着」「アイデンティティ」「持続願望」「参画」の 4 因子が抽出された。なお、忠誠的愛郷心を想定した項目は因子負荷量で顕著な傾向が見られず、因子として抽出されなかった。

(2)都市環境の価値評価

都市環境にはいくつかの重要な価値があると言われている。日英の複数文献を参考に、本研究では利用価値、歴史的価値、文化的価値、社会的価値、経済的価値、環境・景観価値、イメージ価値の 7 つの価値に整理した。都市環境事例の評価アンケート調査では、これらの価値を 5 段階で問うた。

今治市と富山市の調査では、行政や建築士への聞き取り調査、及び、事前アンケート調査等によって、市民認知度や市及び市民としての重要性の高い、あるいは著名な都市環境を対象事例とした(表 3)。今治市については全域、富山市については中心市街地を対象エリアとしている。

今治市の調査結果を用いて、都市環境に対する各価値評価が「市民として(事例)を誇りに思う」度合いに及ぼす影響を分析した。今治市の全ての都市環境事例の調査データ

表 2 シビックプライド尺度

地域参画	地域社会の一員としての責任を真剣に考えている
	自分のような人間が地域社会で重要な役割を果たすと思う
地域アイデンティティ	地域社会を良い場所にするための自分なりの貢献ができています
	自分は地域社会に変化を起こすことができると思う
忠誠的愛郷心	人生の大部分が地域に結びついている
	「(市)の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である
	「(地区)の人」という言葉は、自分がどういう人物かをよく説明する言葉である(今治のみ)
	「(市)市民であることは自分にとって重要なことである
地域愛着	地域は自分にとって特別な場所である(富山のみ)
	この地域は、他のほとんどの地域より良い場所である
	地域を批判している人がいたら、地域を擁護する
	家族や友人に地域の産品や製品を使うよう勧める
	地域のスポーツチームを積極的に応援する(プロ、アマチュア、学校など)
	地域は住みやすいと思う
	地域が好きだ
	地域の雰囲気や土地柄が気に入っている
地域に自分の居場所はない(※逆転項目)	
地域にずっと住み続けたい	
地域は大切だと思う	
地域にいつまでも変わってほしくないものがある	
地域になくなってしまおうと悲しいものがある	

表 3 調査に用いた都市環境の事例

今治市	富山市中心市街地
今治市役所・公会堂・市民会館	富山城址公園
しまなみ海道	富岩運河環水公園
今治城	富山駅
大山祇神社	TOYAMA キラリ
今治港	富山県美術館
みなと交流センター	オーバード・ホール
今治銀座商店街	グランドプラザ
広小路	富山ライトレール
サイクリングターミナル	富山地方鉄道環状線
サンライズ糸山	
新都市地区	市内電車
今治市伊東豊雄建築ミュージアム	大手モール
市制 50 年記念公園	

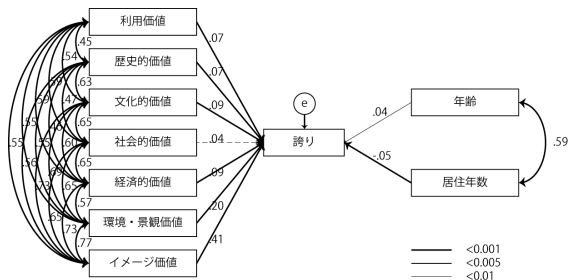


図1 都市環境の価値と誇りの関係のモデル図

を用いて、共分散構造分析を行った結果、図1のパス図が得られた。ここから、最も影響が大きかったのはイメージ価値（地域のイメージが良くなる、地域が有名になる、など）、次いで環境・景観価値（生物多様性保全・環境汚染防止・資源の効率的利用等の持続可能な社会への貢献、まちなみ形成、など）の影響が大きいことが明らかになった。身近な生活や個人の感情的なつながりというよりは、外部からの高評価やより広い社会的課題対応を高く評価をする都市環境に対して誇りを感じるということがわかる。

このモデルを用いて多母集団の同時分析を行う。その施設等に関わるボランティア活動・地域活動・まちづくり・施設運営・イベント運営などの活動に携わった経験の有無で分けると、携わった経験のある集団では、携わっていない集団に比べて、利用価値（利便性が高い、必要な機能がある、ちょうど良い広さ、安心安全、など）の影響が有意に高く、イメージ価値の影響が有意に低かった。都市環境への実質的な関わり方が深くなると、他者の評価の影響が薄れ、実際の利用に際する評価の影響が強くなることが窺われる。その事例がある地区に住んでいる集団とそれ以外の集団に分けると、同地区内の集団では、社会的価値（地域や生活の核となる、地域社会の交流を促す、など）の影響が有意に高くなっている。身近な地域社会における都市環境の役割の認識が誇りにつながり得ることがわかる。

各都市環境事例別にも同時分析を行った。以下に、代表的な結果を示す。今治市役所・公会堂・市民会館は丹下健三設計（1958年）で広場を囲んで公共核を形成している。他に比べて、歴史的価値（伝統や歴史的様式を現代に伝える、過去の出来事の痕跡が留められる、なつかしさがある、など）と文化的価値（建造物や空間としての美しさがある、新しいデザイン、地域の現代的な文化発信になる、など）を高く評価する人ほど誇りが高くなる傾向が認められた。しまなみ海道は、近年サイクルツーリズムの名所にもなっている。平均の「誇りに思う」度合いが最も高く、他に比べて、経済的価値（観光集客による経済効果、周辺の土地や建物の不動産価値向上、など）とイメージ価値の影響が強く見られた。

(3)シビックプライドを喚起・醸成するもの

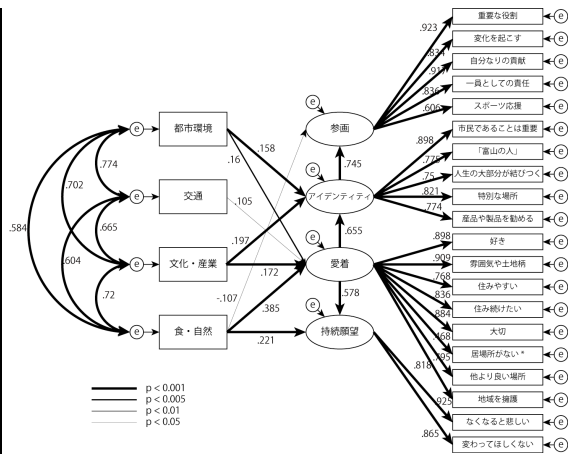


図2 都市の4因子とシビックプライドの関係のモデル図

諸外国におけるシビックプライドを扱った研究から、シビックプライドを喚起・醸成するものとして扱われることが多かった要素を抜き出したところ、建築、文化施設、学校、公園・庭園・広場、地区、スポーツ、イベント、インフラ、産業、芸術、歴史遺産、産物などが得られた。

ここでは、富山市の調査結果を用いて分析を行う。諸外国の既往研究から得られた要素に、富山市中心市街地での聞き取り調査から得られた自然環境と食の要素を加えて、事前アンケート調査を行って市民として誇りに思う具体的な事柄を挙げてもらった。その中から数の多かった食（2項目）、産品（2項目）、自然環境（1項目）、祭り（2項目）、産業（2項目）、スポーツ（1項目）、交通（1項目）について、中心市街地の都市環境事例（表3の11項目）とともに、本アンケート調査において、「市民として（事柄）を誇りに思う」度合いを5段階で問うた。これらをシビックプライドを喚起・醸成するものとして扱う。アンケート調査の結果から、「市民として（事柄）を誇りに思う」度合いで因子分析を行ったところ、都市環境、食・自然、文化・産業、交通の4因子が抽出された。これらがシビックプライドの構成要素にどのように影響するかを明らかにするために、モデルを仮定し、共分散構造分析を行った。その結果、図2のパス図に示す結果が得られた。ただし、シビックプライドを喚起・醸成するものの各因子の値は、それを構成する事柄の誇りに思う度合いの平均値としている。

これらから、都市環境と文化・産業を誇りに思う気持ちはシビックプライドの「アイデンティティ」と「愛着」につながっており、交通（路面電車、LRT）を誇りに思う気持ちは「愛着」につながっており、食・自然環境を誇りに思う気持ちは「愛着」と「持続願望」につながっている反面、「参画」に対しては負の影響を及ぼしていることがわかった。いずれの因子も「愛着」に影響を及ぼしているが、パス係数から、特に食・自然からの影響が強いことがわかる。都市環境は、文化・産

業と同様に地域の人々が作り上げてきたものという特徴があり、このことが自分たち自身を規定する「アイデンティティ」に繋がっていると考えられる。都市環境や文化・産業は「アイデンティティ」を介して「参画」につながりうる。一方、食・自然は与えられたものという性質が強く、「持続願望」につながっている反面、能動的な「参画」には負の影響を及ぼしている。なお、諸外国の既往研究では食・自然はシビックプライドの源泉として挙げられることはほとんどなく、日本に特徴的な要素である可能性がある。

(4)都市環境評価とシビックプライド

最後に、都市環境の評価がシビックプライドを高めるメカニズムを知るために、今治市の調査を用いて共分散構造分析を行う。都市環境の価値評価と回答者属性がシビックプライドに影響すると仮定してモデルを作る。

今治市の都市環境事例の総合評価（7つの価値評価の合計）に対して因子分析を行った結果、1.中心市街地（因子負荷量大きい事例は、今治銀座商店街、広小路、今治市役所・公会堂・市民会館、今治港）、2.新規整備（因子負荷量大きい事例は、新都市地区、みなと交流センター、サイクリングターミナルサンライズ糸山、今治市伊東豊雄建築ミュージアム、市制50年記念公園）、3.高評価有名地（因子負荷量大きい事例は、大山祇神社、しまなみ海道、今治城）の3因子が抽出された。これらの3因子及び個人属性がシビックプライドを構成する4因子に影響を及ぼす影響について、共分散構造分析で得られたモデルを図3に示す。

シビックプライドの4因子間のパスは、既往研究も参照しながら、試行を繰り返して適合度が高くなるようパスを引いた。「愛着」から「持続願望」へのパス、「愛着」から「参画」を経て「アイデンティティ」につながるパスが得られた。前項の富山市の事例とは「参画」と「アイデンティティ」のつながりが逆となっている。

図3から、「中心市街地」の都市環境を高く評価する人ほど「参画」意識が高く、「持続願望」意識も高い。「高評価有名地」の都市環境を高く評価する人ほど「愛着」意識が高い。一方、「新規整備」の都市環境は、シビックプライドに有意な影響を及ぼしていなかった。「中心市街地」の都市環境事例はいずれも平均値としては価値評価が低い、回答者レベルでは「中心市街地」を高く評価する回答者ほど「参画」意識が高いことが示唆される。長年人々の生活が営まれ公私にわたって資本投下もなされてきた「中心市街地」の価値が認識されることで当事者意識と結びつき、「参画」意識が高まる可能性がある。「高評価有名地」は、外からの評価もありわかりやすい自慢できる場所であるが、必ずしも自身との関係が築かれやすい場所ではないため、「愛着」意識は高まるが「参画」

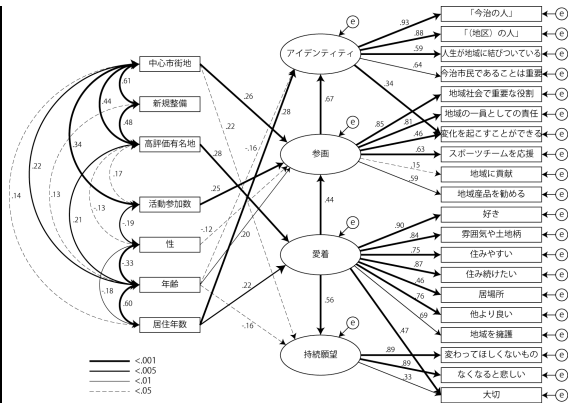


図3 都市環境の評価とシビックプライドの関係のモデル図

や「アイデンティティ」意識の高まりには直接は結びつかないと推察される。

回答者属性では、居住年数が長い人ほど「アイデンティティ」意識と「参画」意識が高く、年齢の高い人ほど「参画」意識が高い。一方、弱い関係ではあるが、年齢が高いほど「アイデンティティ」「持続願望」意識が弱い。前述した「愛着」→「参画」→「アイデンティティ」の他にも、長く住まうことで自ずと育まれる「アイデンティティ」意識もあることがわかる。一方、若い住人ほど「アイデンティティ」意識を持ちやすい傾向があり、地方創成に代表されるように地域の個性を活かした自律が謳われる中で、他から差別化した地域の意識が生まれつつある可能性もある。

(5)まとめ

本研究から、主に以下の知見が得られた。
 ①イギリスを中心とした海外の既往研究・文献から、シビックプライドには地域参画、地域アイデンティティ、忠誠的愛郷心、地域愛着の側面があると整理し、対応するシビックプライド尺度を提案した。これらを用いて行った今治市及び富山市の居住者に対するアンケート調査からは、シビックプライドの因子として、「愛着」「アイデンティティ」「持続願望」「参画」の4因子が抽出された。
 ②今治市の調査結果の分析から、都市環境に対する身近な生活や個人の感情的つながりよりは、イメージ価値や環境・景観価値のように外部からの高評価やより広い社会的関心に関連した価値の評価が、その都市環境を誇りに思う度合いに影響していることがわかった。一方で、その場所の活動に携わるなど実質的な関わりが強くなると、イメージ価値の影響は減り利用価値の影響が高くなること、居住地に近い都市環境の場合は社会的価値の影響が強くなることなどがわかった。
 ③富山市の調査結果の分析から、シビックプライドを喚起・醸成するものとしての都市環境は、「アイデンティティ」と「愛着」に影響するものであることがわかった。この性質は、同じく地域の人々が作り上げてきた文化・産業とも類似している。一方で、与えら

れたものという性質の強い食・自然は、「愛着」と「持続願望」に正の影響、「参画」には負の影響を及ぼしていた。このことは、日本の都市・地域に特徴的である可能性がある。④今治市の調査結果の分析から、都市環境とシビックプライドの関係として、「中心市街地」の都市環境の価値評価が高いと「参画」「持続願望」意識が高まること、「高評価有名地」の価値評価が高いと「愛着」意識が高まること、「新規整備」の価値評価は直接的にはシビックプライドに結びつかないこと、などが明らかになった。

これらは主に今治市と富山市の事例から実証した結果ではあるが、日本の地方都市の都市環境とシビックプライドの特徴の一端を捉えることができたと考えられる。今後、複数都市の比較などの方法も検討していきたい。

<引用文献>

- 1) Tom Collins (2016), Urban Civic Pride and the New Localism, Transactions of the Institute of British Geographers 41(2), 175-186.
- 2) Tom Collins (2017), Governing through Civic Pride: Pride and Policy in Local Government, Eleanor Jupp et al., Emotional States: Sites and Spaces of Affective Governance, 191-203, Routledge.
- 3) John Gastil and Michael Xenos (2010). Of Attitudes and Engagement: Clarifying the Reciprocal Relationship Between Civic Attitudes and Political Participation. Journal of Communication 60(2), 318-343.
- 4) CABE and DETR (2001), The Value of Urban Design.
- 5) Peter Groothuis, Bruce Johnson and Whitehead (2004), Public Funding of Professional Sports Stadiums: Public Choice or Civic Pride?, Eastern Economic Journal 30(4), 515-526.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

- ①伊藤香織 (2017), 都市環境はいかにシビックプライドを高めるか: 今治市を事例とした実証分析, 都市計画論文集, 査読有, vol.52 no.3, pp.1268-1275.
DOI: 10.11361/journalcpj.52.1268
- ②伊藤香織 (2015), シビックプライド醸成におけるデザインの役割, 芸術工学会誌, 査読無, No.68, pp.28-33.

[学会発表] (計 4 件)

- ①川上哲平, 伊藤香織, Andrew Burgess (2018), 利用者の施設愛着が周辺地域への愛着に及ぼす影響: 富山市グランドプラザを対象として, 日本建築学会学術講演梗概集 (掲載決定).

- ② Kaori ITO (2018), Modeling the Relationship between the Built Environment and Civic Pride, 2018 International Geographical Union Regional Conference (掲載決定).
- ③ Kaori ITO, Kotaro KAMEYAMA, Sayaka ARAI and Andrew I. BURGESS (2018), Effects of Townscape/Landscape Evaluation on Place Attachment. American Association of Geographers 2018 Annual Meeting, abstracts (online+DVD).
- ④ Kaori ITO (2017), Civic Pride and Place Attachment through the Medium of the Built Environment, American Association of Geographers 2017 Annual Meeting, abstracts (online+DVD).

[図書] (計 2 件)

- ①伊藤香織 (2017), 「まちづくりの新しい様相・シビックプライド」, 伊藤守, 小泉秀樹, 三本松政之, 似田貝香門, 橋本和孝, 長谷部弘, 日高昭夫, 吉原直樹 (編) 『コミュニティ事典』, pp.424-425, 春風社.
- ②伊藤香織, 紫牟田伸子 (監修), シビックプライド研究会 (編著) (2015), 『シビックプライド2【国内編】: 都市と市民のかかわりをデザインする』, 宣伝会議.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 香織 (ITO, Kaori)
東京理科大学・理工学部建築学科・教授
研究者番号: 20345078